

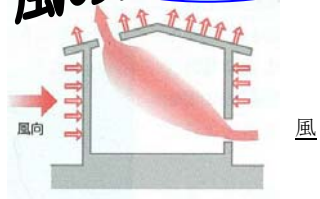


風の道のつくり方お教えします。**通風** **日射遮蔽** **断熱材** 植物の力も借りて「脱・エアコン生活」こんなリフォームもあるのか?!

パッシブな方法でクールに通風・遮熱リフォームしよう!!

風の道の作り方

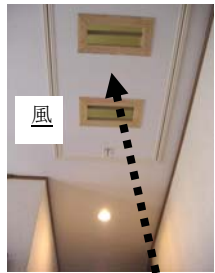
①上下または対角線上に分散させる。



【風通しのよい例】



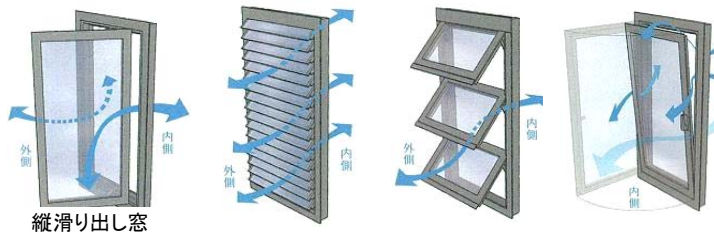
- 【風通しの鉄則】
- ① 庭と軒下で風を冷やす
 - ② 建具は引戸
 - ③ 風の出口は分散させる
 - ④ 階段室を熱抜きに
 - ⑤ 低い風をつくる



暖かい空気は上昇します。
1階リビングからつながる階段室を通し2階へ風を流す方法です。階段室(どの家でも吹抜け)の天井に通気用ガラリを開け(可動)⇒天窓から風を抜く。ガラリと天窓を開けたとたんヒューと風が抜けていく。

この上昇気流を効果的に利用し、自然の涼風を得る方法です。(写真)アップル施工

- ②階段室～屋根方向へと風を上昇させましょう。
- ③風通しに有効な建具は…縦滑り出し窓がおすすめ。



通風するこのルーバー式の雨戸は、微風を呼ぶ効果と、外側に付けるブラインドとして、日射・輻射熱を外で逃がすのに最適です。↓(写真)アップル施工
ルーバー雨戸・オーニング窓



断熱の仕方

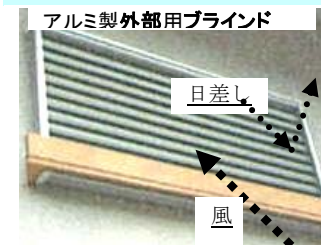


- ⑦窓ガラスを熱線遮断『エコ・ガラス』
- ⑧屋根を『遮熱塗装』『内張り断熱』
- ⑨『屋根緑化』『壁面緑化』

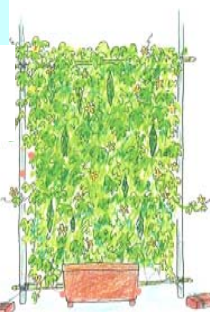
屋根に塗るだけの遮熱塗装
屋根直下に高気密に内張り断熱
緑の壁面緑化
下の屋上緑化の効果は相当なもの。
施主と共に(後姿は私です)
(写真)アップル施工

日射の遮り方

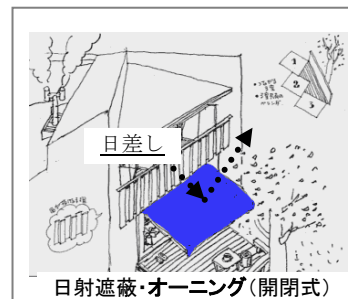
- ④窓ガラスの外側を遮蔽する。
- ⑤外の『ブラインド・オーニング』
- ⑥『緑のカーテン』



外部ブラインドはルーバー雨戸と同様、適度な風を招く。内部にブラインドがあったら、そこは耐え難い蓄熱場所となるだろう...



夏の日射遮蔽は窓の「外側にブラインド」が鉄則です。(写真)アップル施工 (上)↑ルーバー面格子



オール電化のように大型の機械装置を使う方法をアクティブ方式といいます。パッシブは、通風や日射遮蔽など自然環境を積極的に出来るだけそのままの形で活用する省エネ手法です。

夏に木陰を歩くと、風がスーッと抜けていく。おそらくこれが日本人にとって『涼しさ』の語源のような現象であって、エアコンの風の冷たさとは全く違うもの。しかし、夏の屋間の外壁温度は5℃近く上昇して、そこから受ける輻射熱は凄まじいものがある。そんな中で風が吹いても涼しさなど感じられない。『簾』や蒸散作用のある『緑のカーテン』で日よけするのは理にかなう。窓のブラインドとなるものは必ず外側で使おう。オール電化が健康生活の旗印のように言われるが、いくら器具が省エネ型でも台数と時間が増えれば元の木阿弥で逆に石油の火力発電では温暖化は促進される。今年の夏はぜひ自然の通風と日射遮蔽を併用してみよう。(株)アップル建築設計事務所 代表取締役 大竹清彦

